

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真 1) (表 1) などと文中に記載し、右ページに(写真 1) (表 1) などと表記の上、貼り付けてください。
※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式 2】

No. D-55

部門名： 校内研修プログラム開発・実践部門	エントリー名： 岩手県北上市立立花小学校 所慎一郎 平成 3 0 年度第 3 回中堅教員研修
活動名： 全職員で道徳教育の推進 ～児童の道徳性と指導力向上～	
解決すべき課題： 道徳の教科化により、日々の道徳の授業をどうするのか。評価をどうするのか。学校としての重点項目をどのように設定するのか。学校独自の年間指導計画や別葉をどのように作成していくのか等、すべきことが山積みとなっている中、一つ一つの課題に確実に取組、全職員が教科化となった道徳を確実にを行い、道徳教育に明るい教職員。児童が豊かな情操を養い、未来に向けて人間性豊かな人材となれるような道徳教育は、どのようにあればよいか。さらに、家庭・地域にも道徳教育についての理解を図るには、どうすればよいのかの 3 点について、担任兼教務主任という立場で、道徳推進委員と連携しながら推進した。	
目標・方針： 「①教職員の授業力向上②児童の道徳性を育む③家庭・地域の理解を図る。」の実現のため下記の取組を行う。 A 道徳を校内研究に位置付け、年 1 回道徳の研究授業を行い、授業力の向上を図る。 B 児童の道徳性を養うため、確実に道徳の授業を行い、児童自身が学んだ足跡をワークシートに記入する。 C 年 1 回、全学級一斉の道徳の授業参観を設け、学級懇談会で道徳について保護者に説明する。 D 児童に育てたい内容項目についてのアンケートを行う。	
活動内容： 活動内容 ※1 A道徳を校内研究に位置付け、年 1 回研究授業を行い、授業力の向上を図る。 ・1 年目：6 年生担任として、「ミッキーの誕生」の研究授業を行う。全学級、道徳の授業を行う。 ・2 年目：「泣いた赤おに」の研究授業を行い、1 年目で課題となった発問の構成について明らかにする。 B児童の道徳性を養うため、確実に道徳の授業を行い、児童自身が学んだ足跡をワークシートに記入する。 ・毎週、確実に道徳の授業に取り組む。 ・教室の壁面に道徳の足跡と児童には毎時間ワークシートに書かせる。 C年 1 回、道徳の授業参観を設け、学級懇談会で話題にする。 9 月に全校一斉の道徳の授業参観を行い、学級懇談会で、教科化になった背景を話題にし理解を図る。 D児童に育てたい内容項目についてのアンケートを行う。 学年ごとに関わる内容項目の一覧表を各家庭に配布し、アンケートを実施する。	
活動の成果： 1 「A道徳を校内研究に位置付け、年 1 回研究授業を行い、授業力の向上を図る。」について 1 年目は、心情を問う発問ばかりになり、内容項目に深まりが足りなかった。そこで、発問について「場面発問」、「テーマ発問」で、発問の広がりと深みを持たせておくことが大切になってくることが学べた。2 年目は、発問の構成を工夫することを重点としたい。 2 「B児童の道徳性を養うため、毎週、確実に道徳の授業を行い、児童に道徳で学んだことをワークシートに記入していく。」について 毎週、確実に道徳の授業に取り組むことができた。教室の壁面に道徳の足跡と児童には毎時間ワークシートを書かせることができた。 3 「C年 1 回、道徳の授業参観を設け、学級懇談会で話題にする。」について 9 月に全校一斉の道徳の授業参観ができた。その後の学級懇談会で、教科化になった背景など理解を図ることができた。3 学期の通信票で道徳の評価をしたが、保護者から戸惑いの声はなかった。 4 「D児童に育てたい内容項目についてのアンケートを行う。」について 学年ごとに関わる内容項目の一覧表を各家庭に配布し、アンケートを実施できた。	
アピールポイント（アイデアや工夫）： 1 道徳推進委員との連携、教職員の真摯な取組との両輪により、道徳の授業力向上を図ることができる。 2 どの学級も確実に道徳の授業に取り組むことを続けていけば、児童が道徳性を向上させることができる。 3 道徳の教科化の背景の説明や道徳の授業を公開することで家庭・地域の理解を一層深めることができる。	

活動内容 ※ 1 実際の取組から
A道徳を校内研究に位置付け、年 1 回研究授業を行い、授業力の向上を図る。



【研究授業の板書】

児童の思考の流れに沿って工夫を図った。また、板書を児童が振り返る際の手がかりにもなるようにした。



【教師の説話の場面】

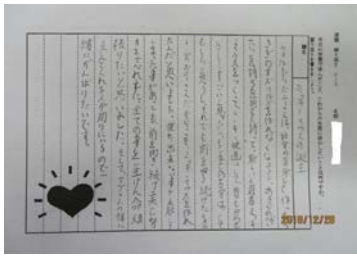
授業内容の登場人物と同じように、あきらめずに頑張る成果をあげた学級の児童を 2 名紹介した。



【指導案】

心情を問う発問に偏ってしまい、ねらいを深めるまでには至らなかった。発問の構成について課題が残った。

B児童の道徳性を養うため、確実に道徳の授業を行い、児童自身が学んだ足跡をワークシートに記入する。



【ワークシート】

毎時間、「今日の学習で学んだこと」「これからの生活に生かしたいこと」という内容で記入させた



【道徳の足跡として掲示する】

教室の背面に、扱った内容の題名と関連する写真を貼り掲示した。3 月には、1 年間で振り返るきっかけとした。



【授業の板書】

授業後、板書を撮影し、児童の思考に沿ったものであったか。振り返りの際手掛かりになっているかを確認した。

C年 1 回、道徳の授業参観を設け、学級懇談会で話題にする。



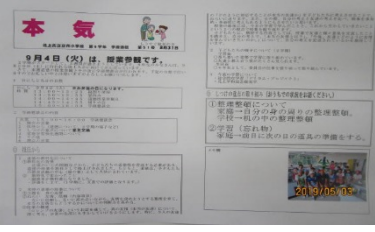
【授業の様子】

どの学級も道徳を公開した。担任の指導力向上、家庭・地域の理解を図る上で有効であった。学校評議委員会の方には、どの学級も集中して取り組めており素晴らしかったと言われた。



【懇談会の様子】

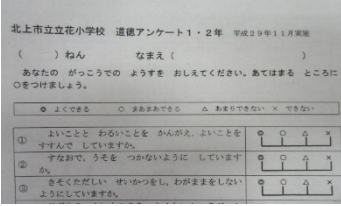
懇談会では、担任の説明の後、教科化についての質問は出なかった。評価をすることに対しては、当初は、驚いている様子であったが、趣旨や評価の仕方について説明すると理解していただくことができた。



【懇談会の資料】

各学級、学級通信で授業の案内や懇談会資料を事前に配布した。事前配布は、目を通してから参観することになるため、懇談会もスムーズになったと思われる。

4 「D児童に育てたい内容項目についてのアンケートを行う。」について



【低学年向けのアンケート】

1 年生は、善悪の判断。親切思いやり。規則の尊重。自然愛護を重点とした。
2 年生は、善悪の判断。親切思いやり。規則の尊重。生命の尊さを重点とした。
※同様に、中学年、高学年用の用紙を作成しアンケートを実施した。
また、その後、道徳年間指導計画、別葉に反映させた。2 年目は、重点項目をより精選して取り組むこととした。